

十勝岳の火山活動解説資料（平成24年5月）

札幌管区気象台
火山監視・情報センター

地震活動、噴煙活動ともに概ね静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。2006年からみられている62-2火口直下浅部の膨張を示す地殻変動は現在も続いていますので、火山活動の推移に注意してください。

平成20年12月16日に噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴煙などの表面現象の状況（図1-①～④、図2～5）

62-2火口の噴煙の高さは火口縁上100m以下で、噴煙活動は低調に経過しました。大正火口の噴煙の高さは火口上概ね100m以下で、2010年5月頃から噴気量のやや多い状態が続いています。

2日に北海道開発局の協力により上空からの観測を実施しました。目視による観測では、62-2火口、大正火口及びその他の火口の噴煙、噴気の状態に特段の変化は認められず、赤外熱映像装置¹⁾による観測でも、地表面温度分布に特段の変化はありませんでした。

1) 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感知して温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

・ 地震及び微動の発生状況（図1-⑤～⑧、図6）

火山性地震は少なく、地震活動は概ね低調に経過しました。震源は概ねグラウンド火口周辺及び旧噴火口付近の浅い所に分布しました。

火山性微動は観測されませんでした。

・ 地殻変動の状況（図7～8）

GPS連続観測では、前十勝観測点において62-2火口浅部の膨張を示すと考えられる変動が認められています。より広域の地殻変動を示す変化はありません。

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<http://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。

※ 資料は気象庁のほか、北海道開発局、北海道大学、北海道及び地方独立行政法人北海道立総合研究機構地質研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平23情使、第467号）。また、同院発行の『数値地図25000（地図画像）』を複製しています（承認番号 平23情復、第492号）。

次回の火山活動解説資料（平成24年6月分）は平成24年7月9日に発表する予定です。

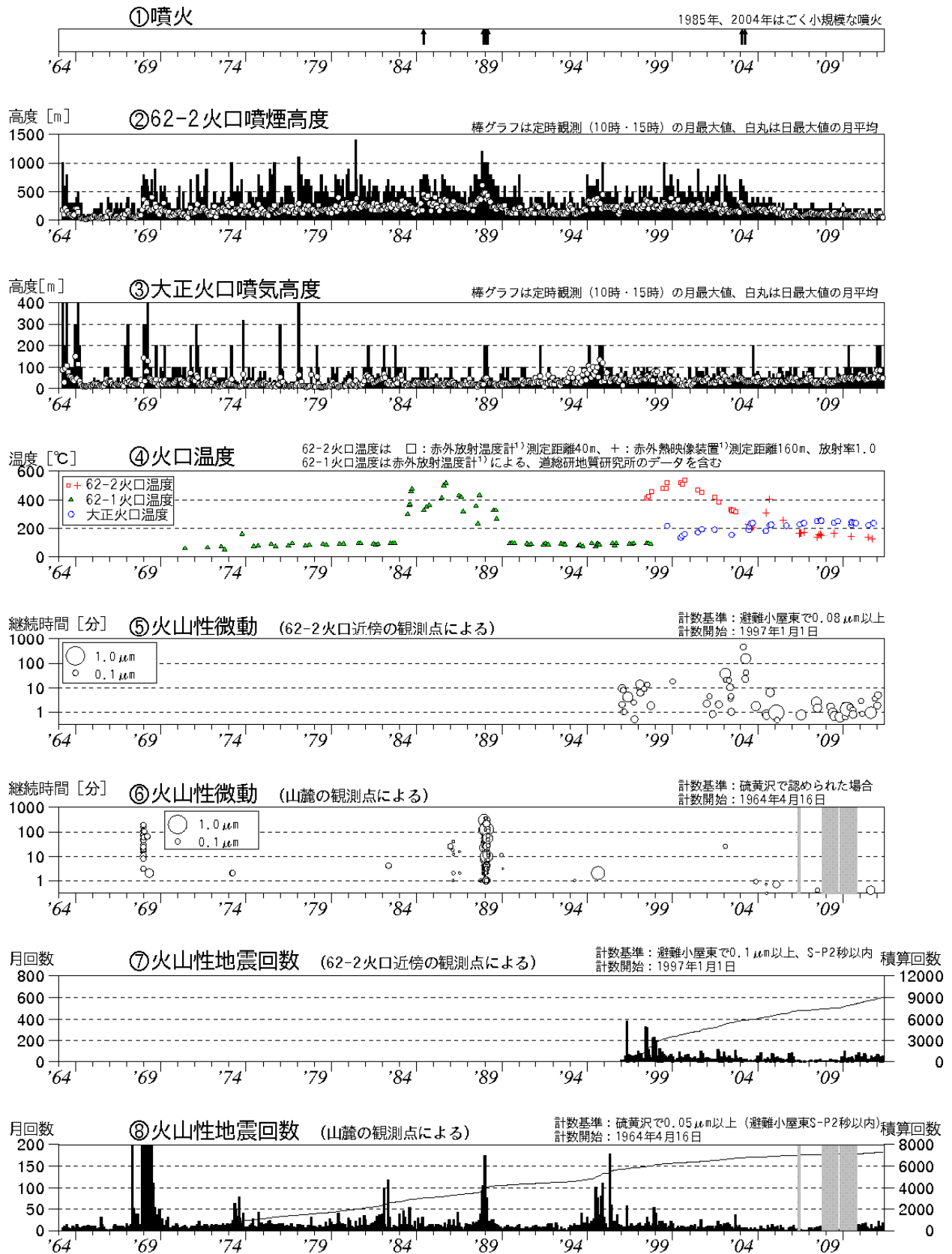


図 1※ 十勝岳 火山活動経過図（1964年 1 月～2012年 5 月）
 ⑥⑧：灰色の期間は機器障害のため欠測しています

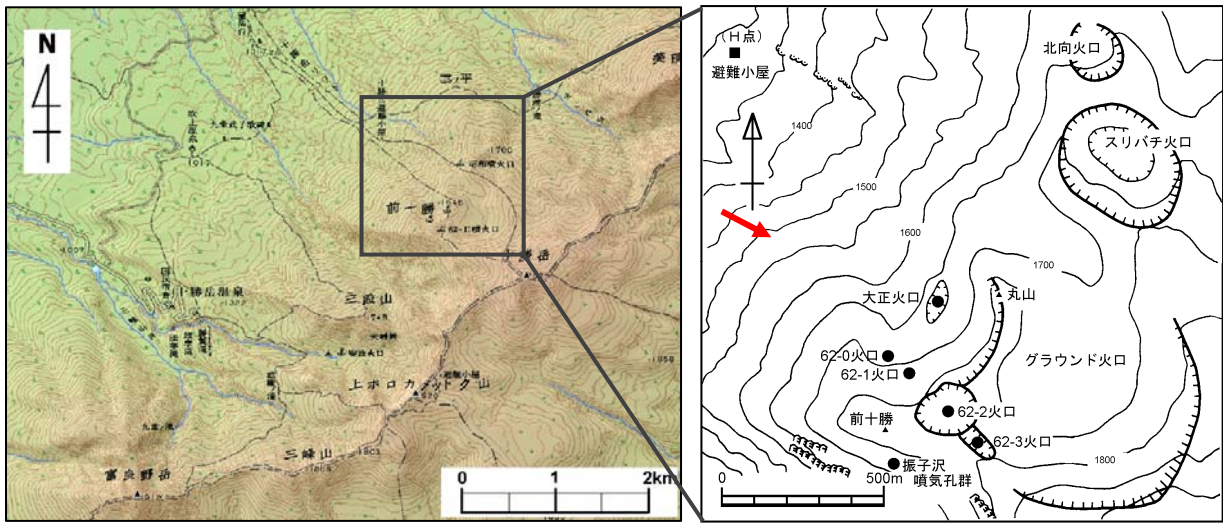


図2 十勝岳 上空からの赤外熱映像及び写真の撮影方向 (矢印)



図3 十勝岳 62-2 火口及び大正火口の状況
北西側上空 (図の矢印方向) から撮影

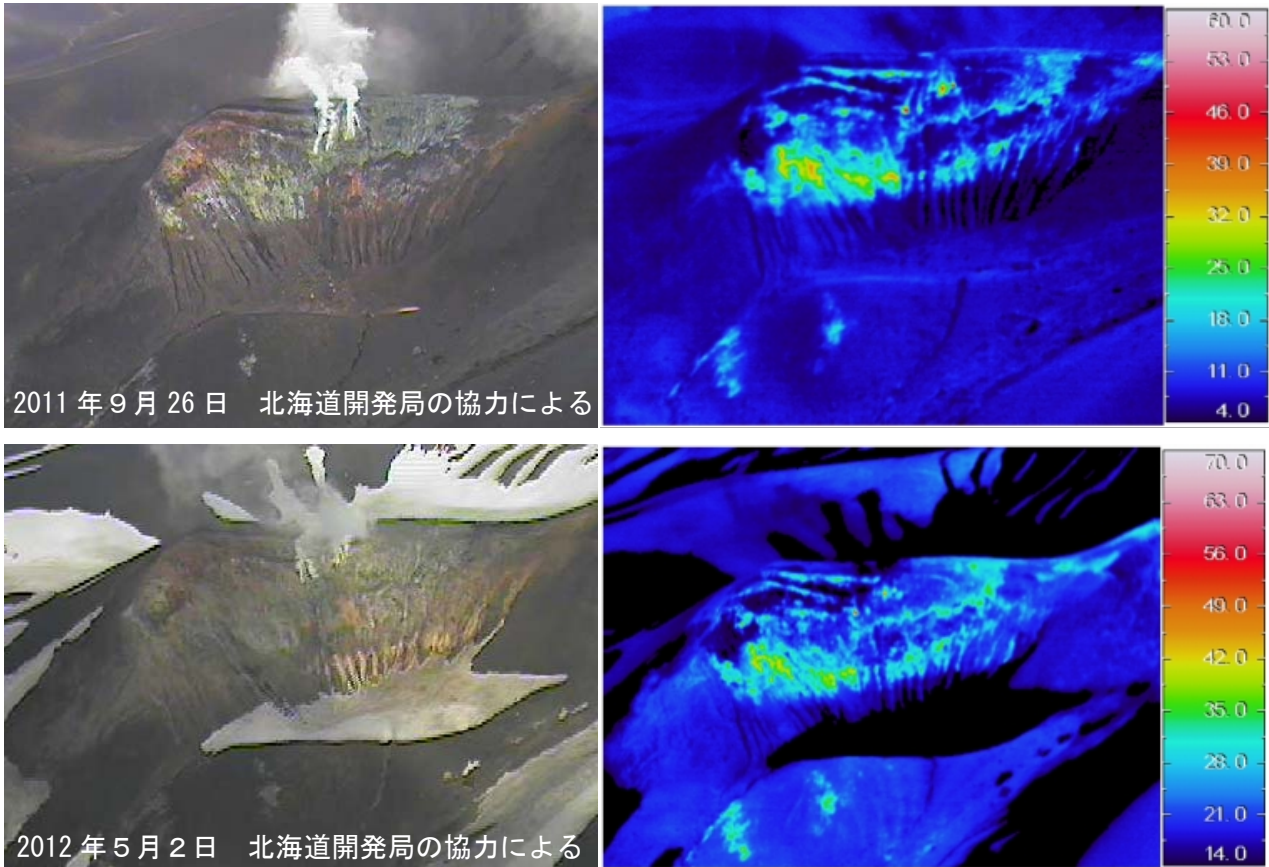


図4 十勝岳 赤外熱映像装置¹⁾による大正火口及び周辺の地表面温度分布
北西側上空（図2の矢印方向）から撮影



図5 十勝岳 山体北西側の状況（5月20日、火山観測所遠望カメラによる）

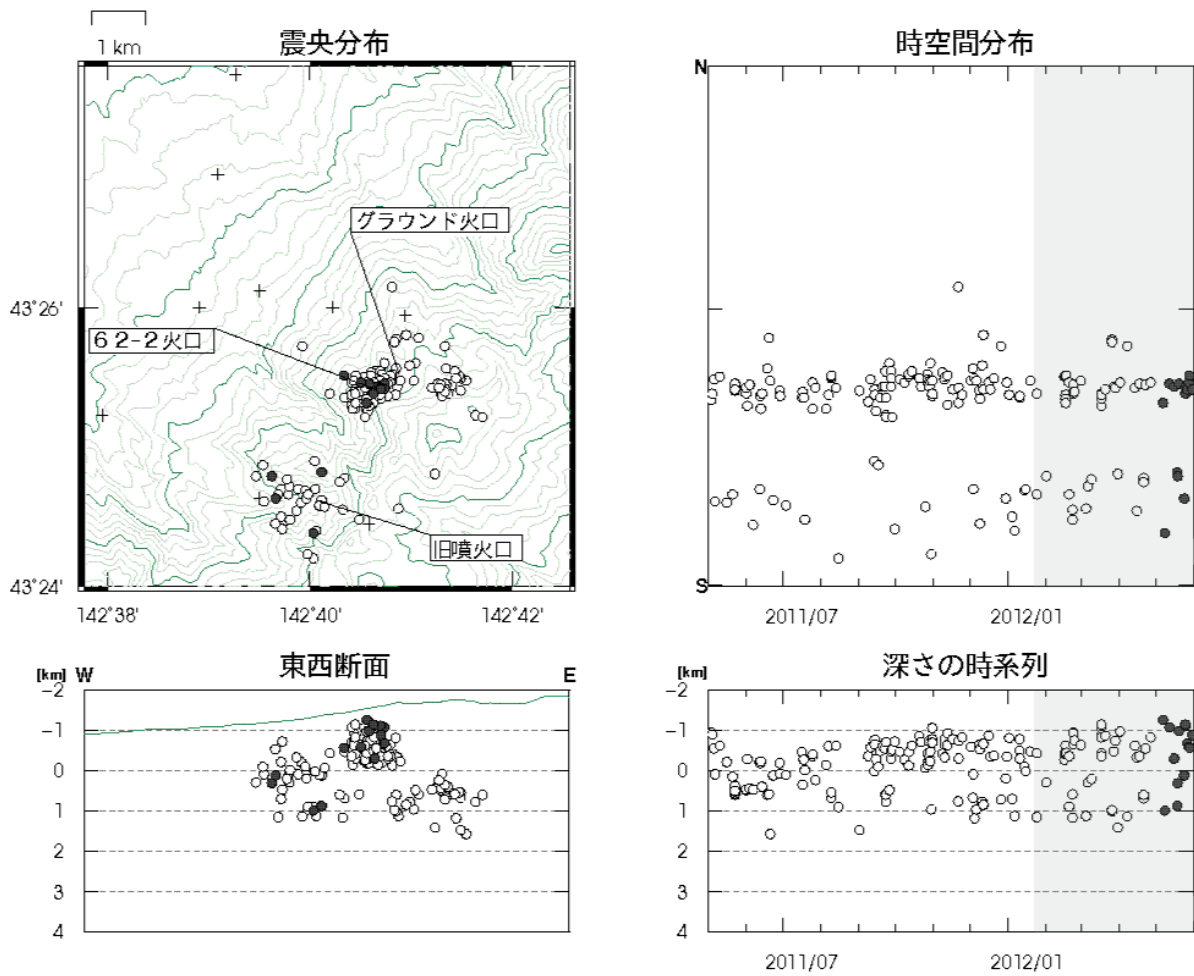


図 6※ 十勝岳 火山性地震の震源分布 (2011年5月~2012年5月)
 灰色の期間は一部観測点欠測のため震源の決定数減少や精度低下が見られます
 ○印 : 2011年5月~2012年4月の震源
 ●印 : 2012年5月の震源

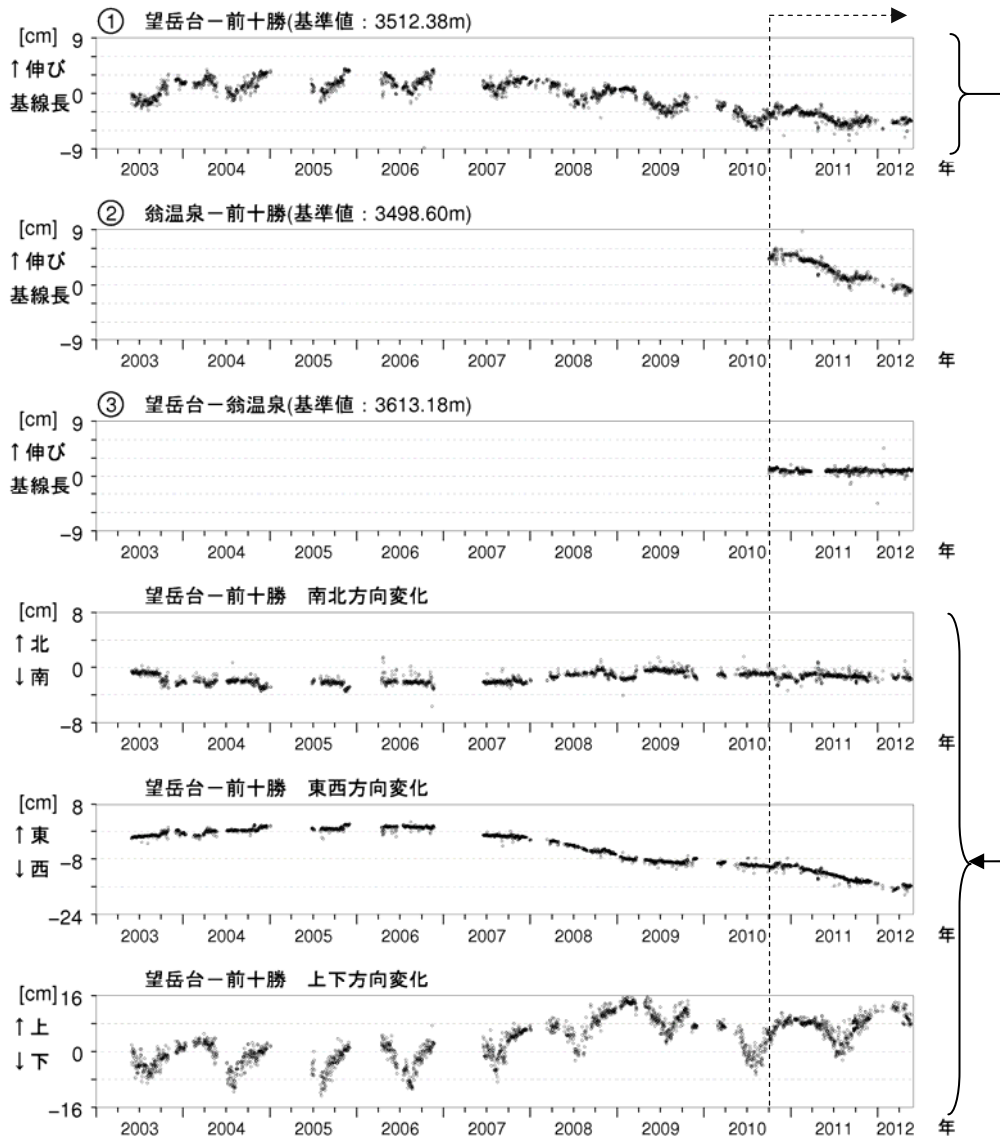


図7※ 十勝岳 GPS連続観測による基線長変化 (2003年5月～2012年5月)
 ・グラフの空白部分は欠測 GPS基線①～③は図4の①～③に対応
 ・4～6段目のグラフは①の3成分変化
 ・2010年10月以降のデータについては、電離層の影響を補正する等、解析方法を改良しています

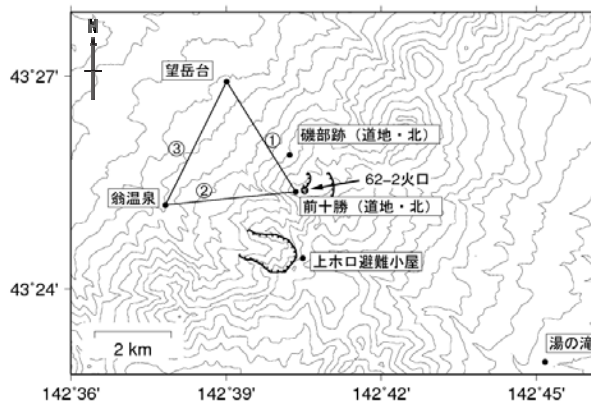


図8 十勝岳 GPS連続観測点配置図
 (北) : 北海道大学
 (道地) : 地方独立行政法人北海道立総合研究機構
 地質研究所

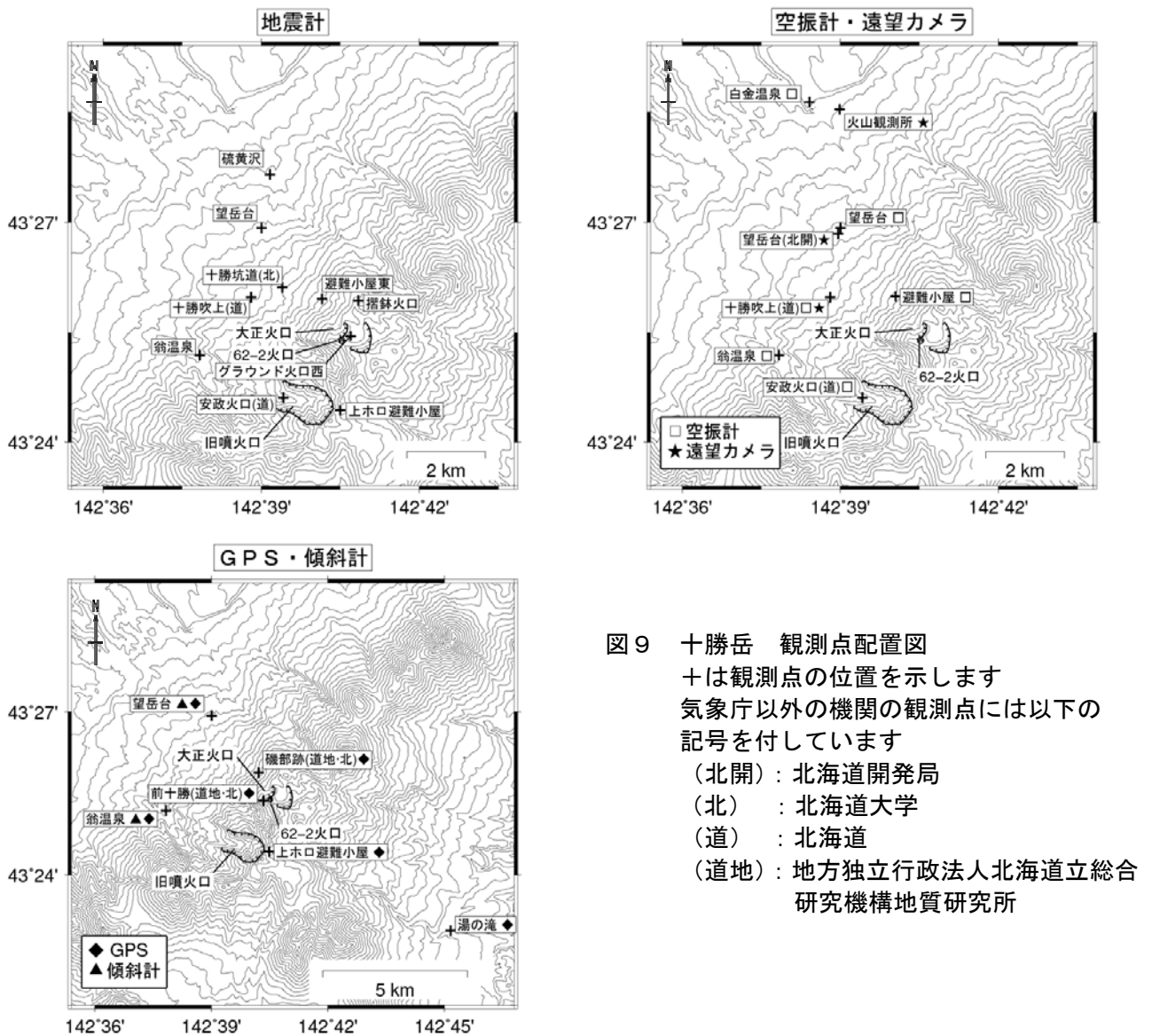


図9 十勝岳 観測点配置図
 +は観測点の位置を示します
 気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています
 (北開) : 北海道開発局
 (北) : 北海道大学
 (道) : 北海道
 (道地) : 地方独立行政法人北海道立総合研究機構地質研究所